

## テーマ：指揮者から見たピアニスト～コンチェルトの現場より



### 講師：沼尻竜典

1990年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝。ロンドン響、モントリオール響、シドニー響、チャイナ・フィル等、世界各国のオーケストラを指揮。国内ではN響を指揮してデビュー以降、東フィル、日本フィルの正指揮者等を歴任。近年ではオペラ指揮者としての活躍も多く、ベルリン、ケルン、ミュンヘン、バーゼル等の歌劇場へも客演している。出光音楽賞、毎日芸術賞、芸術選奨など受賞多数。現在、びわ湖ホール芸術監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督、リユーベック歌劇場首席客演指揮者を兼務する。桐朋学園大学教授。2017年紫綬褒章。

インタビュアー：三上桂子 ほか

### 要旨

世界各国で指揮者としてご活躍中の沼尻竜典先生は、高校ではピアノ科に籍を置いていらしたということで、指揮者となられてからも、モーツァルトのピアノコンチェルトのソロパートをご自分で演奏しながら指揮される、という演奏会もなさっておられます。他の楽器奏者と違い、ピアニストは小さい頃から一人で演奏していることが殆どで、他の方と共演する機会は少ないのではないのでしょうか。例えば室内楽や伴奏などを沢山経験していても、オーケストラと演奏するという事は、また違った難しさ、注意点があると思います。ピアニストの側からはなかなか気付かない面を、指揮者側からお話しただけならと考えております。

その他、オーケストラの色々な楽器の響きや、オペラのように筋書きのあるものからピアニストは何を学べるか、などについても是非お伺いしたいと思います。

(三上桂子)